

Press release

報道関係各位

2008年9月10日

世界銀行、サウジアラビアを「良好なビジネス環境」世界ランキング において第16位に認定

～過去3年間の直接投資額が20億米ドルから200億米ドル超に増大
2010年までにトップ10入りも視野に～

【サウジアラビア・リヤド 2008年9月10日】

世界銀行が本日刊行した「Ease of Doing Business (ビジネスのしやすさ)」に関する年次報告書で、サウジアラビア王国が「良好なビジネス環境」において世界のトップ20入りを果たしました。

サウジアラビアは2年連続で中東およびアラブ世界で最もビジネスに適した地域として評価され、バーレーン、アラブ首長国連邦、クウェートを上回る評価を獲得しました。またサウジアラビアの評価は、ドイツやオーストリアなどの先進諸国をも上回っています。

サウジアラビアは、近年実施した改革が世界銀行に評価され、このたびトップ20入りを果たしました。会社や不動産の登記手続きが改善され、起業や不動産購入が容易になり、コスト面でもより競争力のあるものとなりました。株式公開会社に投資する投資家の保護を目的とする一連の法律が資本市場庁 (Capital Market Authority) と商工業省 (Ministry of Commerce and Industry) によって制定され、投資家保護が強化されています。港湾使用料は50%引き下げられ、海外貿易が一段と容易になりました。さらに、破産手続きに厳格な最終期日が設けられ、裁判の迅速化と債権者保護が図られています。

アムル・アッダバグ (H.E. Amr Al-Dabbagh) ・サウジアラビア総合投資院 (SAGIA) 総裁兼ナショナル・コンペティティブネス・センター (NCC) 会長は、「サウジアラビアの国内投資家および海外投資家にとって、障壁となるものはほとんどありません。あらゆる企業が、わが国において広範な投資機会の恩恵を受けながら、共に成長を享受できることを歓迎します」と述べています。

サウジアラビアのランキングはこの4年間に大幅に上昇しました。2004年の67位から、2006年には38位に上昇し、今年トップ20入りを果たしました。

この躍進は、サウジアラビア国民の繁栄を願う二聖モスクの守護者、アブドゥラー国王のビジョンによって推進されてきました。国王は、サウジアラビアのビジネス環境の近代化を強力に牽引してきました。新しい外国投資法の制定、サウジアラビア総合投資院 (SAGIA) の設立、国有企業の民営化、世界貿易機関 (WTO) 加盟を通じて、国内投資と海外からの投資促進を図ってきました。

SAGIA 総裁は NCC を設立し、10x10 イニチアチブを打ち出し、サウジアラビア経済の自由化に向けて、大きな成果をあげています。これについて「二聖モスクの守護者、アブドゥラー国王のリーダーシップの下、サウジアラビアは競争力の重要性を認識し、

2010年までに世界で最も競争力のあるトップ10カ国にランク入りすることを目標としています」とアッダバーク SAGIA 総裁は述べています。

アルアワド (Dr. Awwad Al-Awwad) ・サウジアラビア総合投資院 (SAGIA) 副総裁 (投資担当) 兼ナショナル・コンペティティブネス・センター (NCC) 社長はまた、「私どもは、世界銀行のビジネスのしやすさ指数、世界経済フォーラム (WEF) の世界競争力指数、国際経営開発研究所 (IMD) の世界競争力ランキングといった競争力を測る代表的な国際指標を3種類活用して、10x10プロジェクトの進捗状況を入念に測定しています」と述べています。

更に同副総裁は「当ランキングは、各国政府、国際開発機関、非政府組織、民間企業がその国の経済状況を判断する際に有力な材料となります。3種類の指標の中で、300以上のパラメーターを使用して10x10プロジェクトを評価しています。国の経済力や高い投資収益を生み出す可能性を測定するには、競争力を測定するのがもっとも総合的な評価方法です」と述べています。

独立行政法人日本貿易振興機構 (ジェトロ) の林康夫理事長は、「サウジアラビアは豊富な財源と湾岸諸国最大の国内市場をもち、目覚ましい発展をつづけています。同国の投資機会は飛躍的に拡大しており、それはエコノミックシティー (Economic City)、国家産業クラスター育成プログラム (National Industrial Cluster Development Program) で数々のプロジェクトが進行中であることにも明らかです。サウジアラビアは、中東・北アフリカ (MENA) 諸国へのゲートウェイとしての魅力もあります。ビジネス環境の発展により、同国は日本を含む海外諸国から今後更なる投資が期待できるでしょう」と述べています。

パラメーターに基づく改革計画は初期の成果を達成しています。サウジアラビアへの海外からの投資は中東有数の規模となっており、過去3年間で外国からの投資額は20億米ドルから200億米ドル超に拡大しました。現在、こうした投資の50%超が石油以外の産業分野を対象としており、経済の多様化を目指す同国の戦略に奏功しています。

SAGIA は同国全域の競争力を向上させるため、すでにラービグ (Rabigh、アブドゥラー・エコノミックシティー)、ハイル (Hail、プリンス・アブドゥルアジーズ・ビン・ムサイド・エコノミックシティー)、マディナ (Madinah、ナレッジ・エコノミックシティー)、ジャザン (Jazan、ジーザーン・エコノミックシティー) と、4つの経済都市を開発しています。経済都市では、外国投資法により、外国資本100%出資の企業設立が認められています。

同国は世界10位内のランク入りを目指していますが、政府のたゆまぬ努力により、ビジネス環境の改革において大きな進展が成し遂げられています。サウジアラビアの基本的な競争力向上をサポートする上で、今後も SAGIA と NCC は中心的な役割を果たすこととなります。

<本リリースに関するお問い合わせ先>
ヒル アンド ノウルトン ジャパン株式会社
今井・黒木
tel: 03-4520-5800
fax: 03-4520-5801
email: isao.imai@hillandknowlton.co.jp

SAGIAについて

サウジアラビア総合投資院（SAGIA）は、サウジアラビアの新しい外国投資法に基づき、2000年に設立されました。SAGIAは、サウジアラビアへの投資誘致を目的としており、最近ではサウジアラビアの総合的な競争力向上も目的としています。

世界へのエネルギーの供給地であり、東西間の主要なハブというサウジアラビアの強みを活かし、急速かつ持続可能な経済成長の達成に必要な投資の誘致を計画しています。

SAGIAは、快適なビジネス環境と知識集約型社会の形成、世界レベルの新経済都市建設を通じ、2010年までにサウジアラビアの競争力を世界で10位以内にすることを目指しています。

2006年SAGIAは、さらなる競争力向上を目的として、サウジアラビアの競争力の監視、評価、支援を行う独立機関、ナショナル・コンペティティブネス・センター(NCC)を設立しました。

NCCは競争力の評価を実施、開発し、さらに改革プログラムの実施とその達成度の監視を通じて改革実現に向けてのシンクタンクとして機能しています。NCCは、政府と民間企業間で協議の場を作り出すことでも改革を推進し、現在では、政府・民間企業の関係者が改革に向けて協力し合える場となるクラスター・アドバイザー・カウンシルの設立も支援しています。また、NCCはサウジアラビアの競争力獲得への取り組みの成果をまとめた「コンペティティブネス・レビュー」等の出版や、自らのウェブサイト（www.saudincc.org.sa）を通して改革を広報する役割も担っています。

SAGIAの詳細については www.sagia.gov.sa をご覧ください。